神戸市教職員組合 青年部との交渉議事録

１．日　時：令和７年 12 月 12 日（金）18：00～18：30
２．場　所：教育委員会会議室
３．出席者：
（ 市 ）教職員人事課長、教職員人事課人事係長、特別支援教育課長、特別支援教育相談センター担当課長、特別支援教育推進担当課長、教職員給与課長、教職員給与課労務制度係長、他１名
（組合）書記次長、書記長、他３名
４．議　題：2026 年度　教育環境整備・労働条件改善に関する要求書の提出について
５．発言内容：
（市）青年部の皆様方におかれましては、各学校現場において、強い使命感と責任感をもって、日々、児童生徒への教育や校務運営にご尽力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。特に近年、新規採用職員が年々増加する中で、ご自身の業務に加え、新規採用教員の相談役としてご活躍いただいている先生方も多いことと存じます。将来の神戸の教育を担う若い皆様方が「働き続けたい」と思える職場とするために、教員として成長し、やりがいをもって働ける環境づくりをどのように進めていくか、共に考えてまいりたいと考えております。また、ご存じかと思いますが、今年度より教職員給与課において健康推進担当ラインを新設し、産業医と保健師が教職員の心身の健康をサポートする体制を整えています。より良い教育のためには、まず皆様方が心身ともに健康であることが大前提です。どうかご自身の健康状態には十分ご留意いただき、何かあれば遠慮なく相談窓口をご利用いただければ幸いです。
（組）昨年度も同じように発言しましたが、青年部が負担に感じている重要な点なのでお伝えします。教職経験のない青年層が大規模校や単学級の学校への配置に偏ることのないようにしてほしいです。例年、大規模校に多く配置されたり、単学級にも配置されたりすることがあります。このような状態のため、大規模校では教職経験のない青年層を２年目と３年目の教員がメンターを担っている現状があります。単学級の学校では、一人で成績の処理を行ったり、公務分掌を多く担ったりしている現状があります。私自身も教職員になって教科担当が私しかおらず、成績の付け方やテストの作成、３学年分の成績処理と分からないことだらけの上、莫大な校務分掌を抱えました。不安を抱えながらの校務の遂行は、心身に多大な負担を感じながら仕事をしていたことを今でも覚えています。

　昨年度の回答において、「緩やかに業務に慣れて経験を積んでいくことができる制度や方策については、引き続き検討してまいりたい。」といただいておりましたが、今年度具体的な対応策はなかったように記憶しています。ぜひ、来年度は青年部層が安心して仕事に取り組むことができるように具体的な案を実行していただきたいです。また、すでに青年層の負担軽減で取り組まれている好事例をご存知でしたら、ぜひ全市に広げてください。

これまでも教職経験の無い者が即担任ということは当たり前でしたが、近年は世間の目が厳しく、年々ミスができないという心理的に過酷な状況であると感じています。そんな中、神戸市では少しでも不安を取り除くために採用前研修を導入していることに感謝しています。しかし、現場に出てからのフォローがまだまだ少ないと感じる場面もたくさんあります。困ったり、聞きたいことがあったりした時に、同じ教科の指導教官が同じ現場にいないのもその一つです。現場に出た後もいつでも何でも相談できるような体制を整えてください。

教職員が一番大切にしなければならないものは授業だと考えています。採用されたばかりの青年層は特に授業を大切にしたいと考えている教職員が多いです。しかしながら、すぐに莫大な量の校務分掌を担い、教材研究に時間を割くことができない教職員が多すぎます。安心して授業に全力投球できるような対策を検討いただきたいです。例えば、校務分掌の負担軽減です。年齢構成上、青年層も重い分掌を担っていかなければならない部分があることは一定理解していますが、年齢に応じてバランスの取れた校務分掌となっていない事例もあります。適切な業務量となるよう、事務局から管理職へ働きかけをしていただきたいです。私の周りにも次の日の教材を研究に情熱をささげている青年部の教職員がいます。そんな方々が長く教職員を続けて神戸の未来のリーダーになれるようにご配慮お願いします。

現在，ICT 端末の活用や個別最適な学びなど授業において教師に求められる資質や能力が非常に多様化している中で，教職経験のない者が教科担任を単独で引き受けることはあまりに負担が大きいものだと考えています。また，教材研究の仕方や評価の取り方がわからないまま教壇に立ってしまうことで，子どもたちの混乱を招き，適切な評価を行うことができない可能性もあります。また，中学校３年次の成績は，高校進学時の内申点にも影響するため，より一層適切な評価が求められます。

教師にとって一番大切なことは，教科指導であり，これはベテラン教師であっても新人教師であっても同じです。

教職現場が初めての教員にも，安心かつ自信をもって授業に取り組めるように，同じ担当教科の教員を再任用短時間勤務や非常勤講師の方などが支援できる体制をつくっていただきたいです。今後、学校規模が小さくなることが予想されます。配置の面で避けられない場合は、事務職員の相互支援体制のように、教職経験がなく教科担任を単独で引き受けている方を、経験豊かな方が兼務の形でフォローできる体制を確立するなどの具体策を考えていただきたいです。

（市）校長に対して、初任者の配置の際、特に教職経験のない者が配置される際には校務分掌、担任を持つか持たないかについて配慮するようお願いしています。検討もいただいているものと考えておりますが、教職経験のない教員にとっても希望がいろいろとあり、担任を早くからしてみたい方もいれば、こんなに校務分掌があると思わなかったなど、いろいろご意見がありますので、一律に、初任者に学級担任を持たせないということにすることもどうかと思っておりますので、ただ、初任者が意欲・モチベーションを持って続けていただけるように、引き続き校長と話しながら配慮を工夫してまいりた

いと考えております。

次に、授業と校務分掌の関係ですが、教員が一番大切にしなければならないことについては授業であるということはもちろんご指摘の通りだと思います。初任者に限らず、全教員に言えることだと思いますが、一方で、この校務分掌というのも、学校運営上必要な業務であり、その業務を通して子どもたちの成長を進めていくということも教員の大きな役割かと感じております。ただ、校務分掌が偏っていることや、すごく手を取られることで、授業の準備時間をかけることができないということはできる限り防いでいかないといけないというのは、我々も同じ思いで、教員の経験年数や、その時々の繁忙、繁忙じゃない時の役割分担の変更など、そういったことも含めて管理職の方に引き続き配慮してほしいということをお願いしていきたいと思っています。教員間の支え合い、それから事務局との分担等も考えながら、過度の業務負担によって授業準備ができないとか、それによってモチベーションを下げてしまうようなことがないように引き続き検討していきたいと思っています。

要求番号４番の、教科担任の点ですが、ご指摘のとおり、特に実技教科において、其校に一人の配置となることが多くありますが、できる限り教職経験のある教員の配置を優先しています。しかしながら、どうしても教職経験のない方も単独で配置するということが起きているのが実情です。その場合は、近隣の学校の同教科の教員が相談に乗り指導していただけるような体制を、教科によっては実施しているところがありますが、十分と言えるかというところはありますので、今後も、せっかく教科で交流することもあると思いますので、若い方が一人で抱え込まない体制づくり、教科のことなので専門的な相談がしたいと思った時に相談できるという体制づくりを引き続き検討していきたいと思っております。

（組）校務分掌に関しては、既に校長の方にも言っていただいているということですが、校務分掌も青年層の方が一人で担うということがないように、必ずサポートでベテランの人をつけるなど、既にしていただいているかもしれませんが、そういう発信をしていただけたらと思います。

教科に関して、評価の時期に相談も多いですし、評価の付け方がわからないだとか、評価シートの使い方、近くにいて一緒に作業をするというような人が欲しいというところがありますので、何かその評価の時期に手伝うような形ができたらありがたいと思います。

（市）若い職員の方々が増えてこられて、我々としてもその方々が経験を通じて活躍していただけるということを期待して採用しておりますので、最初の段階で負担が大きいためとか、希望を持ったことが少し折れてしまってとはならないように、そこは管理職、事務局としても、意識して配慮していこうと思っておりますので、これからもそういった声を聞かせていただければと思います。

（組）要求番号４番でありました、教科によってはフォロー体制ができているということですが、これは事務局の方が主導で指示をされているのか、教員自身でそういう体制を作っているのか詳しく教えてください。

（市）事務局主導で何か申し伝えているわけではないですが、そういった例もあるということで、そのような輪が広がるようないい事例あるというのは把握しています。

（組）要求番号１番ですが、青年層の特に経験のない人に急に校務分掌を多く持たさないことや、希望を聞いて担任をもたさないなどの配慮をしていただいていますが、実際に校長先生がどれぐらい配慮できているかという点についてアンケートなどで把握されているのでしょうか。

（市）校長は一定認識されているものと考えています。ただ、他の教員の配置状況や勤務状況等を見たときに、どうしても担任を持ってもらわざるを得ないという反応はありうるかと思います。配慮しているか否かのアンケートは取っていませんが、対応できている学校とあまりできていない学校があるだろうという点について課題認識は持っています。機会を通じて管理職にお伝えしていく必要はあるかと思っています。

（組）要求書番号７について発言します。全校訪問再開ということで、学校の様子を実際に見に来て肌で感じていただく機会があること、深く感謝しております。ただ、現場で働く青年部層の一職員としては、学期に１回程度、たった５分の参観の中で「特別支援教育の状況把握」や「特別支援学級の学級運営の把握および助言」をしていただいている実感はありません。今後の子供たちとの関わりに生かせる助言を得られたというような実感はありませんでした。もう少し時間を確保して参観していただかないと、状況把握や助言などはできないのではないかと感じています。例えば、ある学校では、専門的な見識を持つ方から特別支援教育の視点で児童に必要な支援の助言を受けることで、すぐに実践に生かして安心して子どもたちと関わることができているそうです。

具体的には、第一段階として定期的に来校いただき、気になる児童を中心に、その児童の特性を見取ったり、必要な支援を一緒に考えたりしてくださること。第二段階としてそれを受けて担任が保護者の方と連絡を取り、必要に応じて面談を行い、今後の進路も含めてお話をしてくださるそうです。

これはご厚意によるものだそうです。ぜひとも、教育委員会事務局としてこのようなシステムを構築していただくことはできないでしょうか。必ず子どもたち、保護者の方、我々教員にとって救いの一手になるはずです。学校がこのような相談体制を組めていればいいのですが、特別支援教育コーディネーターは担任が兼務している学校も多く、相談体制が構築しづらいのが実情です。

もちろん、学校から特別支援教育相談センターに依頼して、訪問支援をしていただくことはありますし非常に感謝しています。ただ、特支課へ相談する際には、管理職を通じて連絡をしないといけなかったり、日程調整が必要であったりと、相談のハードルが高いことを感じています。担任の日常の困り感を少しでも減らすための環境になっているかと考えると疑問が残ります。このような現場の困り感を受け止めていただき、来年度の改善へとつなげていただければ幸いです。

（市）過去にも令和２年度までは全校訪問を特別支援教育課として実施していたのですが、令和３年度からコロナ禍ということで全校訪問がずっと途絶えた状態になって、今年５年ぶりにさせていただきました。６月から 10 月の終わりまでかけて約 250 校に行かせてい

ただいたのですが、もちろん行かせていただいても十分な時間が取れることなくお話をして終わっているようなところもあったと思います。私が指導主事に全校訪問が始まる前にずっと言っていたことですが、今回の全校訪問はまず 5 年間ずっと途絶えていたものを再開するということで、現場の先生と特に特支担の先生を中心に関係づくりのために行ってくださいというのをずっと伝えていました。もちろんご指摘のとおり、本当に短時間で実態把握や助言というのは本当にできていない厳しいところがあったと思いますが、まずは今まで本当に、担当の先生がどんな先生でどんなふうに頑張ってくださっているのか、どんな思いで頑張ってくださっているのかということを十分理解していなかった 5 年間があったので、まずは再開するにあたっては現場の先生の関係づくりを一番の主眼に置いて行ってくださいという指示をずっと出していました。ですので、これで今回の全校訪問で終わりというのは全く思っていません。実際、担当主事を中心に 2 回目の訪問の時の報告を受けて 2 回目学校に行っていることもありますので、そのあたりは遠慮なく言っていただけたら、一度行ったからこれでもう終わりですよというつもりは全くございませんので、お伝えいただけたらと思います。

あと、管理職を通じて連絡するのはハードルが高いというがお話もありましたが、まず現場の特支級の先生の困り感、特支級の状況などは、やはり管理職がしっかり把握しておかなければならないと思います。特別支援教育の推進のリーダーシップを取っているのは管理職ですし、その管理職が知らない状況というのはやはり特別支援教育の推進という部分では問題かと思います。お手間をおかけしますが、管理職からしか連絡は受け付けませんという意味で言っているのではなくて、まず管理職の先生に先生方の困り感をしっかり把握していただく、状況を把握していただく、そのうえで我々に相談いただけたら本当にいくらでも足を運びますし、実態把握や助言をしっかり時間をとって、学校訪問、全校訪問でできなかったようなこともさせていただこうと思っています。本当にそのあたりは遠慮なく言っていただけたらと思いますし、そのための全校訪問と思っていますので、よろしくお願いします。

(市) いつもありがとうございます。今年度立ち上げた学校支援チームというのがありまして、今まさにご厚意と言われていたことをしたいと思って立ち上げたチームです。行かせてもらって、クラスを集団規模で見せていただいて、学級運営の仕方等を、一緒に考えていくことを今年から始めています。そのあたりの周知はしっかりできていないというところで、なかなかご利用いただけないのかと思いますので、まずそのあたりの周知の仕方、発信の仕方を考えていきたいと思っていますので、ぜひご利用いただいて、これも 1 回も相談が来てもらったからそれで終わりいうことではなく、早速今年取り組んでいるところは 2 回、3 回ビフォアアフターで行っていただいます。特別支援学級に関しては、特別支援学校センター的機能というのがかなり周知されてきていると思います。聞くところによると 1 回で終わらずに何回も行っている学校もありますので、そういうところを含めて活用していただけたらと考えています。周知が不足していて使えていない方もいると思うので、そういうところはきめ細やかに考えていきたいと思います

(組) 私は特別支援学級の担任をしているのですが、青年部として挙げさせてもらっている

のは、今お話しがありました、通常級の経験が浅いからどうしていいかわからない、例えば単にわがままなのか、特別支援が必要なのかというところがわかりづらい、いきなり保護者に伝えるのも違うし、どうしよう、でもこれは学級経営ができてないからと言われてしまうかもしれないといった不安が特に青年層に多いと感じています。そういう時にもちろんこちらからお願いして来ていただくのも私たちがしなければいけないと思いますし、それもわからないような１～3 年目の教員たちが何とか教員ももちろんそうですしその中で困っている子どもたちが救えるようなシステムとしてやっぱり定期的な訪問という形を増やしてもらえたら、きっと我々青年部層が助かるのではないかという思いが今回強いです。もちろん今ある制度も利用していくことは私たちも伝えていくことができるかと思っていますが、そのあたりはやはり難しいのでしょうか。こちらから申請してから動くという仕組みが一番動きやすいのでしょうか。

（市）支援チームに関しては今スタートしたばかりなので、今のこの形でさせてもらえたらなと思います。一定学校の方で困っている人で手を挙げたところをまずは行ってあげないといけないいうことがありますので、今そこで精いっぱい頑張っていますので、その間一定ニーズなどが把握できるようになったらそのような定期的な訪問も逆にご迷惑でなければお邪魔しますので、うまくニーズを拾ってしていき、今後検討していきたいと思います。そういう声をいただいたこと今後行きやすくなりますので、ありがとうございます。よろしくお願いします

（市）あと、若手の先生が増えてどんな支援が必要で、どういうところに困り感があるのかそれに基づいたどんな支援が必要なのかということを手助けできる一つのツールとして ICT ツールの導入を今考えています。質問に答えていくと、その子の困り感が見えてどんな支援があるのかということを示してもらえるようなツールですが、今小中学校併せて 10 校で試験導入しています。試験導入していただいて使っていただいている先生方の意見を集約して予算要求につなげていっているところです。通常学級の子どもが通っている自校通級を今どんどん増えています。その中で自校通級が今まで特別支援学級はほとんどの学校にあって OJT で経験された先生もたくさんいますが、やはり通級指導教室というのは今まで拠点校通級しかなかったので、それほど経験者がいないということも含めて、通級担当に初めてなった先生が子供たちのアセスメントや、支援の方法について最初に困ると思いますので、そのあたりを助けられるようなツールを導入できるように予算要求を行っています。導入された際には積極的に活用していただけたらと思います。よろしくお願いします。

（組）自校通級教室の今後の展望があれば教えてください。

（市）今、77 校の自校通級教室があり、令和８年度まで 100 校の設置を目指して準備をすすめているところです。あと 23 校、来年度に設置を目指していきたいと思っています。特に来年度は中学校の特別支援教育の充実を考えています。77 校の内訳は、小学校が 65 校で、中学校が 10 校、義務教育学校が 2 校ということで、中学校が少ない状況です。小学校では自校通級教室に通うことができたのに、中学校に進学したところ、存在しないため授業を受けられないといった状況になっており、学びの継続性という点からも問題あ

るかと思いますので、中学校の自校通級教室の設置を進めていきたいと考えています。また、なかには自分の学校の通級指導が受けられていないという児童生徒が多数いるという実態も把握しているところです。新たに設置してほしいという要望も毎年受けておりますので、今後進めていきたいと考えています。令和 9 年度から令和 18 年度までの 10 年間で神戸市内すべての必要な学校に設置したいと概ね考えています。学校の状況等もお聞かせいただきながら、順次進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

（組）教員を夢見てその夢をかなえて学校現場で働いている方が早々に払ってしまうという状況に胸が痛みます。今日の交渉で、市教委事務局の皆さんも同じ思いで様々な方策をとっていただいていることが分かりました。今後とも引き続き青年部のみなさんが働きやすい環境となるようよろしくお願いします。本日はありがとうございました。